

できた……エルラによく効く媚薬……



こいつさえあれば……ぶひひ……
待つでろよクソエルラ……

「おっ♪オークはっけ〜ん♪
丁度お金切らしてたところなのよね〜♪
あ、金になりそうなもの置いていったら殺しはしないわよ？
ほら痛い目に合いたくなくなかったらさっさと言う事聞きなさい？？」

「ささささささ………」



「何笑ってんのよ気色悪いわね…
ほらさっさといつもみたいに金目の物置いて逃げていきなさいよ！
こっちだって忙しいんだからさっさとしなさいよこの豚オーク!!!」

(……)

「今までよくもオレをコケにしてくれたな…これでも喰らえ！」



（よじっ！当たった！）

○
○
○
○
○
○

「痛っ…なにすんのよ…ってえっ？あ…れ…？
体…が…動かない…目の前が暗…く…」





「グッ…こんな所に連れてきてどうするつもりよ豚オーク！
オークの分際で何様のつもりなの！？
ほら、痛い目に合いたくなかったら早くここから解放しない！」



「こ、こいつ…まだ立場が分かってないみたいだな
まずはその生意気な口から叩き直してやる…！
っと…その前に……」



「グッ」

「い、今のなによ……!?」

「ぶひひ…最近完成した媚薬だよ
特にエルフにはよく効くらしいぜ?」

ドキ♡

ビクビク

ドキ♡

ビク♡

かク
かク

「なっ……なに……してくれてんのよ…
っ……はあ……はあ……」

（んっ……なに……これ……体があつ熱い……）





「それじゃあまたごめん…」

ガク

ガク

ガク

ビク!!

ビク!!

ガク

「何勝手に人様のちんぽ嗅いでんの？怒るよ？
そんなに気になるなら特別にしゃぶらせてやるよ！」

「な……フゴッ、なんてもの近づけてんのよ……♡
は、早くど……どかしなさい！」

「スンスン……フゴ……フゴッ」
(なにこのっ……最っ低な臭い♡♡)

フゴッ♡

ビキッ

ビキッ

フゴッ♡

ビキッ♡





「んぎんぎん」

「んぎんぎん」

んぎん

んぎんぎん

んぎんぎん

んぎんぎん

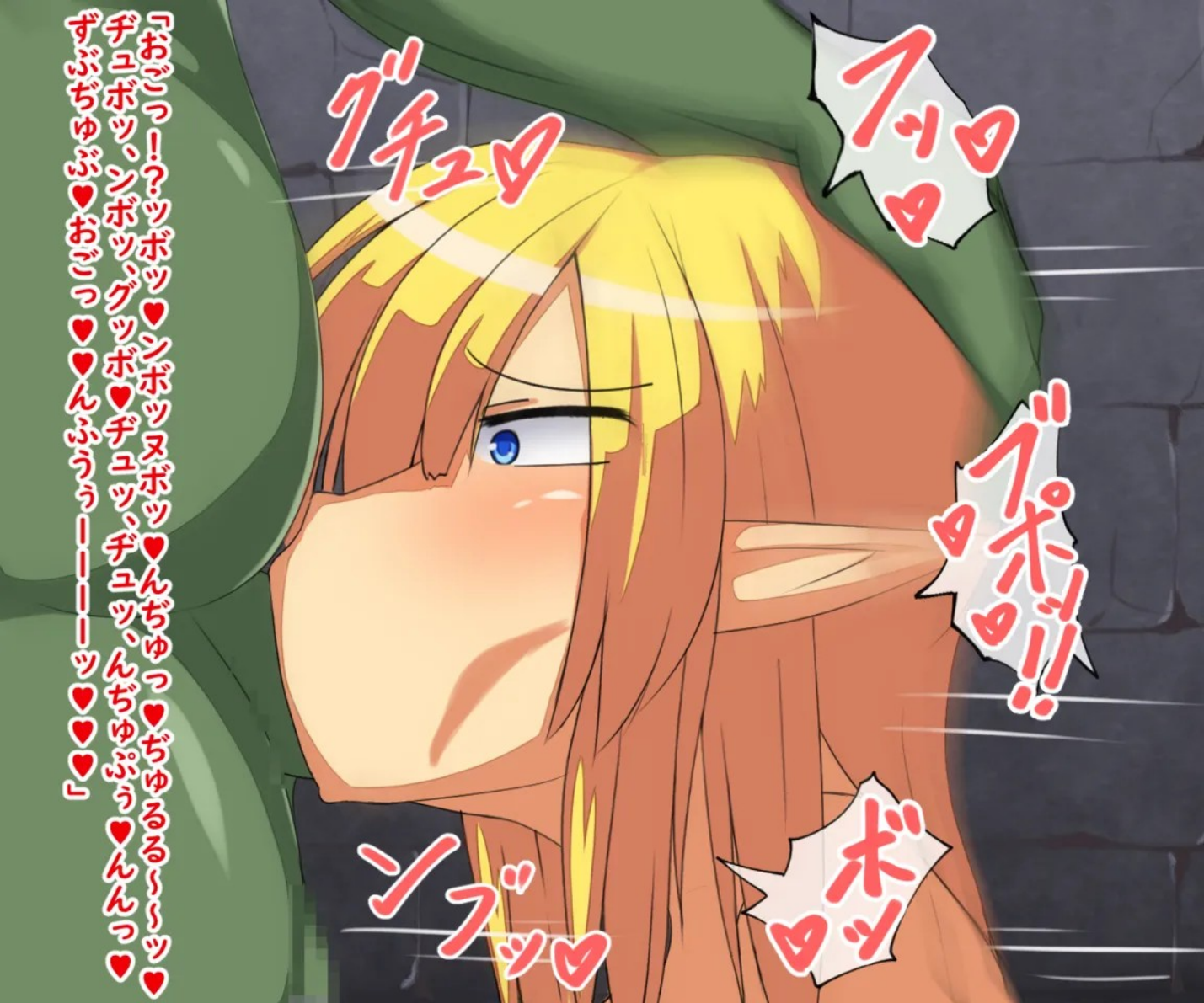
んぎん

「うぶっ…ぎもぢわるい……………」

「ほらほら、エルフちゃんの大好きなおちゃんぽだよ？
嬉しいね♡ちちゃんと射精するまでしゃぶらないと
抜いてやらないからな？分かったならさっさしゃぶれ！」



「いつまでちんたら舌でちんぽ味わってんだよスケベエルフ！
ロマンコはな…こうやって使うんだよ…オラツッ！」



「おごっ！？ツボツ♡ンボツヌボツ♡んぢゅっ♡ぢゅるる〜ツ♡
チュボツ、ンボツ、グッポ♡チュツ、ヂュツ、んぢゅぷう♡んんっ♡
ずぶぢゅぶ♡おごっ♡♡んふうう〜ツ♡♡♡」

「ちゃんと飲み込むまではなさないからな?」



「んんっ♡ぢゆるっヂュルッ♡………んっくん♡♡♡」

「ううっ…ぎもぢわるい………」

「んぽぢゆるっ♡ぢゆるるううっ♡♡♡んっくん♡♡♡ぢゆる♡ぢゆるッ、んっぽ♡ぢゆるりゅりゅりゅっ♡♡♡んっくん♡♡♡」



「プファッ!げっぶ♡♡♡おえっ♡♡ひっく♡
はあッすう〜ッはあッはあ♡げおおッ♡
:んっぶ♡げえええ〜♡♡♡♡♡
「うわっ、きつたねえザーマンげっぶ(笑)
次がこっちだ!」

「いやっ!はなしなさいよっ!このクズオーク!!
さ、さつき出しだでしよ!?!?」
「ひっ...あんなの入れられたら死んじやう...!」

とくっ♡

とくっ♡

とくっ...

とくっ...

とくっ♡

「パンツにシミ付けて言っても説得力ねえんだよ!
オラツ!」





ドチユッ
ツッ
ハッ
ニャッ
フワッ

「いやあああああッ!」
…ひぎっ!…おっ!」

ハッ
ツッ

ツッ
ハッ

ツッ
ハッ

「……はっ……はっ……んおっ♡
…はひっ♡…おあ……おあっ……♡」

があ♡♡♡

がっ♡♡♡

あ♡♡

ブル♡♡♡

がっ♡♡♡

トロ♡♡♡

「ぐおっ…締まるっ…!!
こんな優秀な穴ひっつけといて誇らしく無いのかよ
…っであれ? 気絶してるのか? 起きろオラッ!!」

ピク♡♡♡

ピク♡♡♡

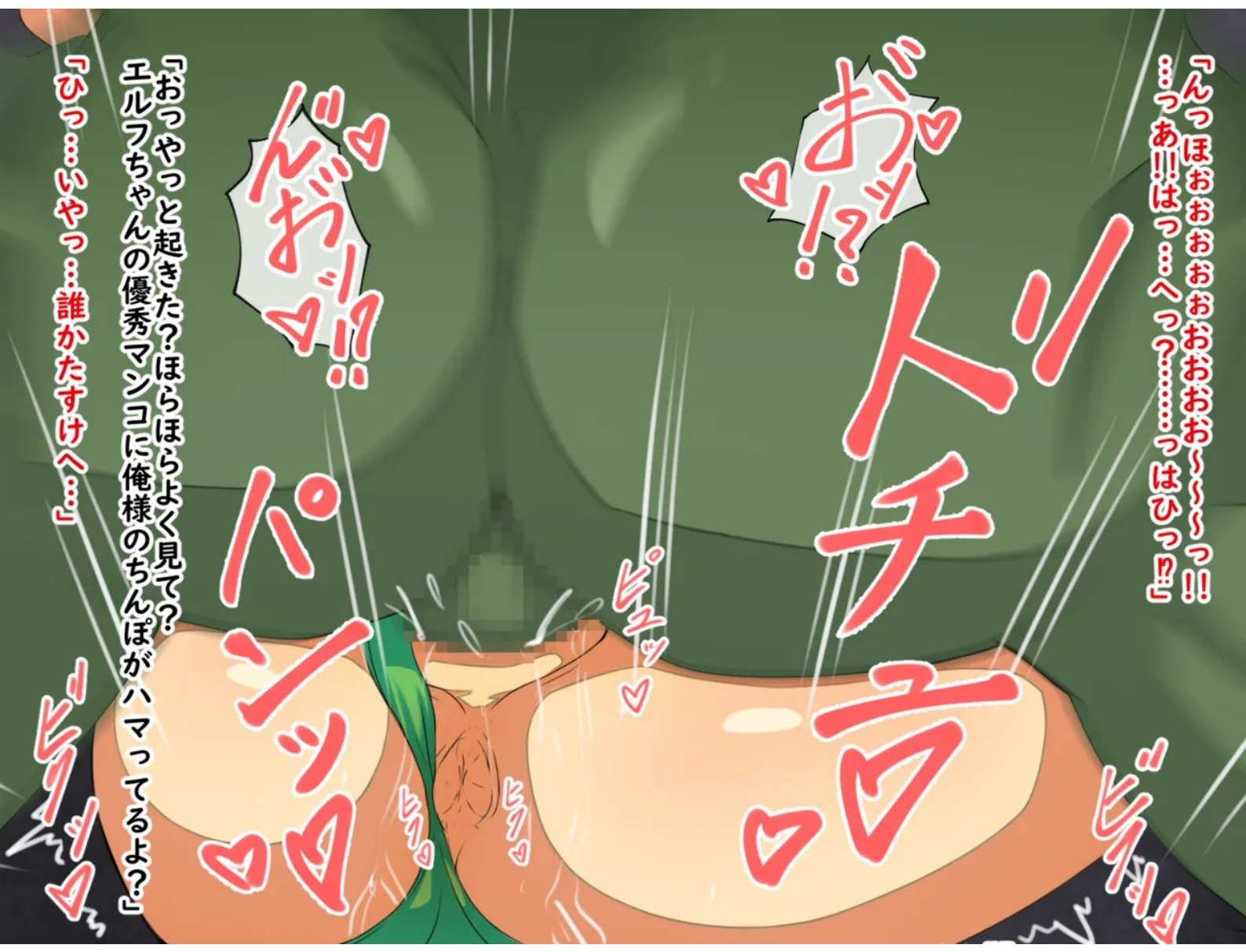
「んっほおおおおおおおおお〜っ!!
…っあ!!はっ…入っっ…っはひっ!!」

お!
ド
チ
ン

ん!
パ
ン
ツ
ン

「おっやっど起きた?ほらほらよく見て?
エルフちゃんの優秀マンコに俺様のちんぽがハマってるよ?」

「ひっ…いやっ…誰かたすけへ…」



「せっかくハメてもらってるなんだその言葉は!?!
お前はここで一生オナホとして生きてくんだよ!」

あゝ♡♡♡

あゝ♡♡♡
スト♡♡♡

ん♡♡♡
び♡♡♡

パ♡♡♡
ン♡♡♡

フ♡♡♡
ホ♡♡♡

スト♡♡♡
ホ♡♡♡

ガ♡♡♡

「やらっ♡そんなのいやあああっ!?!あっ♡
んほおおおっ!?!おまんこ引っ張られるっ♡♡
ほっ♡んほっ♡……んおおおおおおっ!?!♡♡ガ♡♡

「ぐおおっ！出そうだ！」

ホッ♡
ホッ♡

ゴホッ♡
ゴホッ♡

パン♡
パン♡

ズリ♡
ズリ♡
ズリ♡

ビク♡
ビク♡

パン♡
パン♡

ゴホ♡
ゴホ♡

「ああっ！おひっ♡♡
やっ…いやっ…♡子宮が勝手にい…♡
出すなら外にひえええ♡♡♡♡♡」

ビク♡
ビク♡

「ふひひっ……ひっでえ顔(笑)
まだ出したりねえ……いつまでへばってんだこっちこい！」

おっ
がっ

がっ

がっ

がっ

がっ

がっ

がっ

「ぐっ……あっ……」

あひっ……んおおっ♡やらっ♡

あああっ……♡ああっ♡♡♡♡♡

「…っん…♡は、はやく解放しなさいよ…!!
高貴なエルフ族の私にこんな事しておいてただで済むと…おっ?んおっっ!?!?!?!?!?
おっほおおおおおおおおおおおおおおおおおお♡♡♡」

♡んおッ♡
♡んッ♡

♡おッ♡
♡んぶッ♡

♡ストおッ♡

♡ストおッ♡

「はあ!?!?
高貴なエルフ様がちんぽ入れられたぐらいでこんな下品な声で鳴くわけねえだろ!
さてはお前豚だな? 豚が何エルフ偽ってんだよ謝れオラッ!?!?!?!」

「んおっ♡ごめんなさい♡♡♡ふづっ♡謝る♡謝るっ♡♡フゴツ♡
豚みたいに鼻ならしながら謝りますからゆるしてください♡フゴツ♡ブヒブヒ♡」

「分かればいいんだよ分かれば、じゃご褒美にケツ穴ほじほじしてあげるね♡」

んおっ♡
おっ♡
んおっ♡
おっ♡

「んほおおおお♡♡♡なに…これえ!?!んおっほおおおお♡♡♡」

「んっ?ケツ穴交尾初めてだったのかな?♡
これが本来のお尻の穴の使い方なんだよ?勉強になったね♡」

ハハハ

ヒリッ

ヒリッ

ハハハ



「おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡やらっ♡こんなもの知りたくなかった♡♡♡
やべっ♡♡ごれやべっ♡♡おしりのあなばがになるううう♡♡♡」

「何がおしりの穴だオラツ！ケツ穴だろうが！」

「んおっ♡おっほおおおおおお♡♡やらっ♡ケツ穴やらああああ♡♡♡」



「ほっ♡ほっ♡んおっ♡♡やらっ♡♡これやらっ♡♡あああゝゝゝっ♡♡
こんなのでイギだくない♡♡いったら確実にケツ穴ばかりなりゅ♡♡♡」

「ちんぽギユウギユウ締め付けながら言っても説得力ねえんだよメス豚！」

んおっ♡

あっ♡

んおっ♡

んおっ♡

んおっ♡

んおっ♡

「あっ♡ケツ穴イギそうっ♡♡ゲツ穴アクメなんでぢだくないっ♡♡♡」

「……」

んおっ

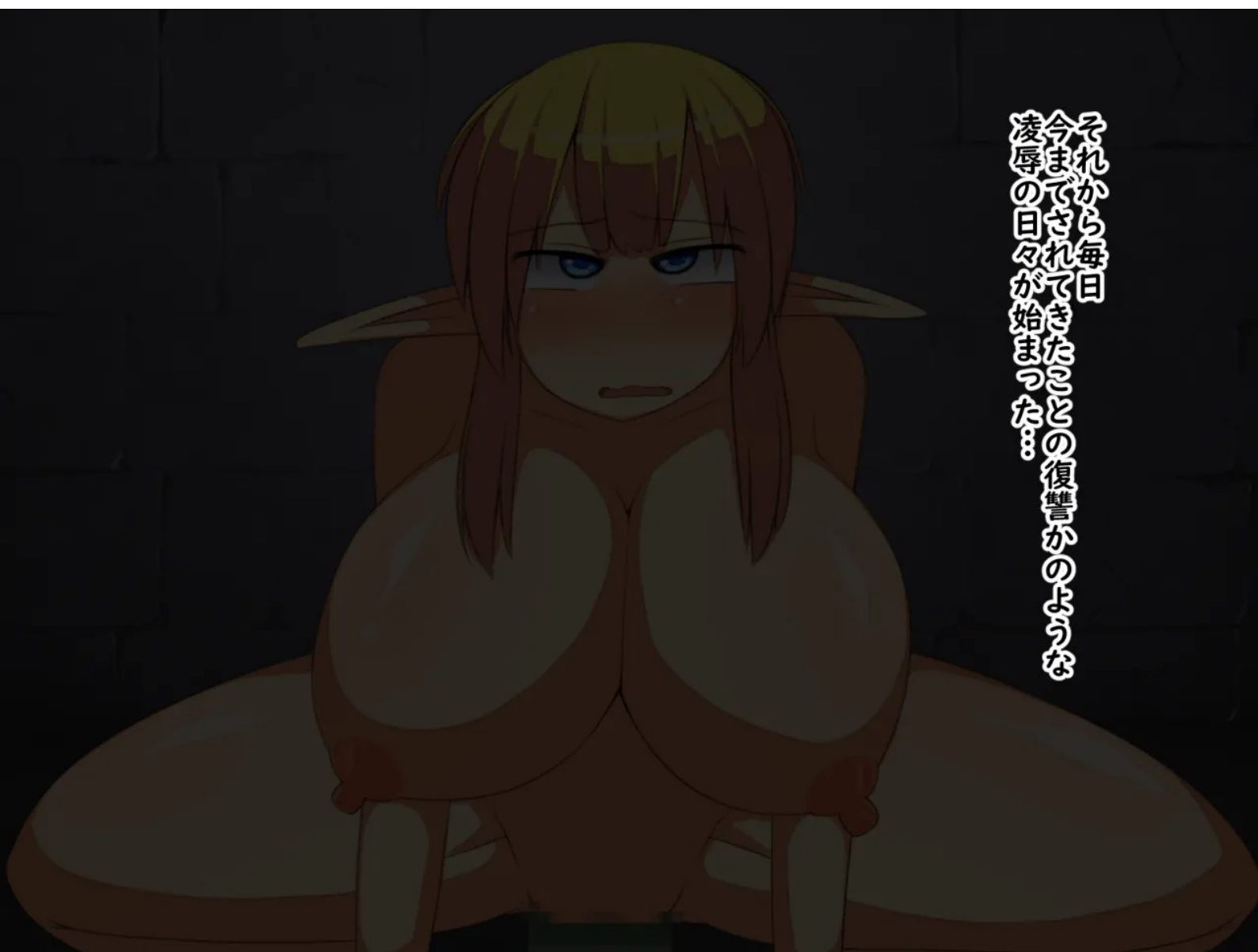
んおっ

んおっ

んおっ

「んほっ♡んっぎいいっ♡いいぐっ♡ケツ穴いぎますっ♡ケツ穴アグメぐるっ♡♡♡
んっほおっ♡おおおおおおおおおおおおおおおおおお♡♡♡」

それから毎日
今までされてきたことの復讐かのような
凌辱の日々が始まった……





「エルフちゃん？なんて腰止まってるの？
ちゃんとオナホとしての自覚もって？」

はあ...

んびっ!

おっ!

はあ...

はあ...

「はあ...」

はあ...

はあ...

はあ...

「んおっ!?!」
ちよつとまっれ……んっ……
イってっでうごへないのお……♡」

「イキそうなきときはちゃんと確認取れって言っただろ!
人語が分からない豚さんにはお仕置きが必要だね♡
はっいお薬ですよ♡」



「やらっ♡……おっ♡
お薬やらあ~~~~あひっ~!」



ピッ

ツツツ

ツツツ

「ぐおっっっ出るっ！……！」



「おおおっ♥イキそう♥イグツ♥イキますっ♥んおっ♥
イイイイッぐうううううッ♥♥♥んおっ♥
種付けされながらイッぐううう♥おほおおおっ……ッ……！」

「ふ〜出た出た。ま〜た許可なしにイっちゃったの？反省して？
今晚は夜通しお仕置きっクススだね♥覚悟しろオラッ！」

「やらあ…んひっ♥おしおきやらあ………♥♥♥♥♥」



「今日も会いに来てやったぞ…ってなにやってんだ？」

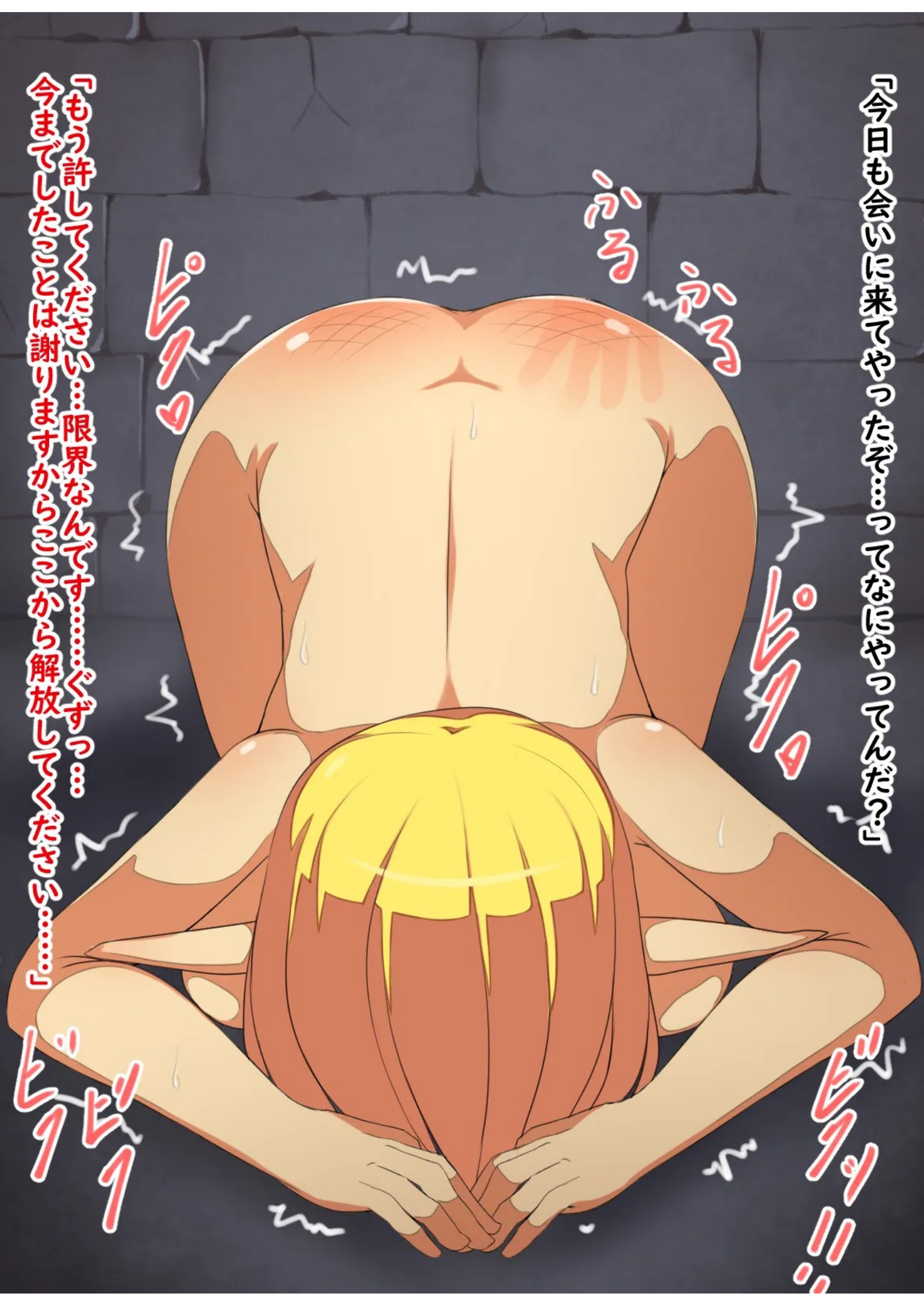
かる かる

ピクピク

ピクピク

「もう許してください…限界なんです…ぐずっ…
今まででしたことは謝りますからここから解放してください…」

ピクピク



「ぶひひっ…そんなに懇願されちゃ断れねえなあ…
そうだな…今日一日俺様の攻めに耐えれたら開放してやるよ(笑)」

「えっ…そんなことで許してくれるんですか…?」

「耐えられてたらただけどな(笑)」

「(今に見てなさいよクソオーク…!!
一日耐えてこんな所から絶対脱出してやるんだから…!!)」



「ここがすきなんだろう？
オラツ！ー！！！」

ピクピク♡

ピクピク♡

「んおっー!？」

「……んんっ♡んおっ♡はっ♡はげじっっ♡♡♡あっ♡
んっ♡おっ♡おっ♡あっ♡あっ♡おっ♡♡♡」

おっ♡

おっ♡

パッ♡

パッ♡





「おっ♥イキそうっ♥イキそうっ♥イキそうっ♥
イギます♥イグイグイグ.....」

あーっ

あーっ

「んおっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥んあっ♥♥



ぱんぱん♥

ぱん♥

ぱん♥

「イツ……えっ?……なんで……?」
「もうちょっとでイケそうだったのに……!」

?

?

「なに期待してんだ?」
「ぶひひひ……一日堪えるんだっただよなあ?オラツ!」

ピョッ

クワッ
クワッ



「っおああっ!っ?やっ♡そこダメっ♡
ふっ♡ふっ♡ふっ♡ふっ♡ふっ♡
んあっ♡今度こそイツ………♡♡イギますっ♡♡」



「やらっ……♡今度こそイっ……あ……あれ……？」

「びびびびびび……」

ビィ……

ビィ♡
ビィ♡



〜
〜
4
時間後
〜
〜

「イっ……！……へっ……う……なんでえ……？
なんでいじわるするのおお！？イきたいの！イかしてよお……！！」

「ぶひひひ……なんだあ？一日耐えるんじやなかったのかよ？」

「あぁっ♡イギだいつ♡イギだい♡イギだいのおおおおおおっ♡♡♡」

「うおっ！？くそこいつ…暴れんなドスケベ！そうだな…
一生オナホとして生きてくって誓うならイカしてやるけどどうすっかなあ？」

「誓うっ♡誓いましゅっ♡だから早くおマンコほじほじしてください♡」

「あくあ誓っちゃったよ(笑)…なら思う存分ほじってやるよ！」

ピョッ

ピョ

ピョ

「はひゅっ♡♡んおっ!?!そこっ♡そこしゅきな♡♡
おっ♡んおっ♡も、おっ♡おっ♡おっ♡もおっ♡つとそこほじほじしてください♡♡」

「俺様に指図してんじゃねえよいきたがりの雑魚マンコが!」

おっ♡

♡

♡

パ♡

パ♡

パ♡

パ♡

「ごめんなしゃいっ♡♡おほっ♡ほっ♡ほっ♡ほっ♡ほっ♡
あっ♡イグッ♡イギぞうっ♡エルフのクソ雑魚マンコいきぞうでしゅ♡♡ほっ♡ほっ♡
「俺も出そうだ!受精準備しろ!」

「はいっ♡♡イグッ♡イグイグイグイグ♡♡♡」





「ちゅっ♡…あの時わあっ♡…すんすんっっ！一時の気の迷いだっただんです…♡
やっぱりエルフはあ…おちんぼ様のコキ穴になるために産まれてきたんだなって…♡
れおれるおっ♡はああ…おちんぼ様おいしい♡…ちゅっちゅっれるれるおっ♡♡」



「ちんぽに恋人キスしながら何言っただよスケベエルフ！（笑）
アホな事いってる暇あるならちやんとしゃぶりやがれ！」

「んおおおお、ふう…スツキリした。よし！飲んでいいぞ」



「んっ…ふああい♡♡♡オーク様のおちんぽザーメンミルクいただきまあぁす♡♡♡
……ごっくん♡♡♡はあぁ♡♡♡ごっくん♡♡♡ごっくん♡♡♡ぢゅっぢゅっぢゅるるるっ♡♡♡
んぶっ♡♡♡んぶぶぶぶぶぶぶっ♡♡♡ごっくん♡♡♡ごっくん♡♡♡ふうっ♡♡♡ごっくん♡♡♡
♡♡♡」

ゴブッ♡

ゴブッ♡

「ふう〜スッキリしたっつと…もういいか。
よし!あとはお前からで好きに使っていいぞー!」

ピクピク♡

ピクピク♡

フワ♡
フワ♡
フワ♡

フワ♡
フワ♡
フワ♡

「はあ♡…はあ♡、はあ♡………
「…?」



可愛い♡

可愛♡

可愛い♡

可愛♡

可愛♡

可愛♡

可愛い♡

可愛い♡

「んぶっ……はあ……ジュツジュツ♡ふうっ、ヂュツポン♡♡ぢゆるるるるるっ♡♡」
「うほっ、タコみたいに引っ付いてきやがる。
ちやんとやったら褒美ゲームン飲ませてやるからしっかりしやぶれよ！」

「レロレロロオ~~~~ッ♡ふうっ、ずぢゆるるるるる~~~~ッ♡♡」

「手が止まってんぞー！」

「はひいらい♡ジュツぢゅぞぞぞおッ♡♡ごめんなさい♡♡ずりゆるるる~~~~ッ♡♡」

ズボッ♡

ズボッ♡

ズキッ♡

パンッ♡



「何勝手にご褒美貰ってオナホ顔してんだよ！オラッ！
まだごっちは終わってねえだろうが！ちゃんとマンコ締めるスケベエルフ！」



「んっひいいい♡♡ごめんなしゃい♡おまんこ締めましゅからゆるしてください♡♡
しめっ、締めるっ♡んんっ♡♡おっほおおっ！おまんこがゴリゴリっ♡♡
んおっ♡そんなにしたらっ♡おっ♡おまんこごわれるっ♡♡♡」

♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

「んっ♡あぁっ♡おっほおん♡♡もう完全にっ♡子宮降りちゃってる♡♡♡
おっ♡おっ♡受精準備♡完了っ♡♡おおおおおお♡♡♡」

「締めすぎだろこのオナホール…クソっもう出そうだ！
出してやるんだからちゃんと孕めよっ…！」



「んおっ♡はっ♡ありがとうございますう♡♡あぁ〜♡♡ぐうううううっ♡♡オナホマンヨもイグっ♡♡イギそうでしゅっ♡♡
イイツ♡イカせてくれてありがとうございますっ♡♡あぁイっぐううううっ♡♡」

ズッ♡♡

ズッ♡♡

ズッ♡♡

パン♡♡

パン♡♡

§
§
6
時間後
§
§
§

「ぶひひひ…
こうして犬っころみたいになれるのが好きなんだろう？
犬なら犬らしく鳴いてみるよ！」

「…わんっ♡♡♡わんわ…んごっ♡♡♡んごっ♡♡♡ふぎゅっ♡♡♡
んおっ♡♡♡ぶひっ！♡♡♡ぶひっ♡♡♡ひひひひひひ♡♡♡」

「あ〜♡エルフちゃんのお口あつたけ〜♡♡」

「んぼっ♡おっ♡♡おごっ♡♡♡」

ブヒッ♡

パッ♡

ブヒッ♡

ブヒッ♡

ブルッ♡



「ふう〜出した出した」

「出したならさつさと退きやがれ！
まだまだ後ろで並んでる奴らが居るんだぞ！」

「チツ…わかったよ……オラツ！
お前のせいでちゃんぽが汚れたじゃねえか！
ちゃんと掃除しやがれ！」

「…あつ……んひつ♥……おつ……んおつ♥」
(んっ…いき…息できないっ…誰か助けてっ……)





(おはっ...いっ...意識がっ.....)

ピクッ♡

パッ♡

パッ♡

ピクッ♡

ピクッ♡

ニ

§
§
數年後
§
§

「よお久しぶりだな、元気になってたか？」

「ぶ~~~~っ♡♡♡はっ♡♡♡はっ♡♡♡はっ♡♡♡はっ♡♡♡はっ♡♡♡」

フ~~~~♡

ドキ♡



フ~~~~♡



ドキ♡



「つてなんだこりゃ、ひつでえな(笑)
オラッ！久しぶりに使って奴からこっちにこい！」



「ぶひひひ…
エルフちゃんの大好物がお口いっぱいになって幸せだね♪
ちやんと感謝しながら味わって飲むんだぞ？」

「ふっっっ♡ふっっっ♡ふっっっ♡オークさまおちんぽミルク
お口に出してくださってありがとうございます♡いませしゅ♡♡♡」

「ん♡」

「ちゅっ♡」

「ちゅる♡」

「ん♡」

「大好物のおちんぽミルクいただきます♡♡♡す♡♡♡」



「ぷふあああつっ!♡ふっっ♡ふっっ♡ふっっ♡」
（あんなに出したのにまだこんなにかっちかち…♡♡♡♡）

「何勝手にちんぽに頬ずりしてんだよドスケベエルフ!
ハメてほしかった欲しいなりの恰好ってもんがあるだろ!」
「ご、ごめんなさい♡♡するっ♡♡しますから♡♡
オーク様専用のちんぽコキ穴でシヨシヨしてくださいっ♡♡」



「おっ♡んほっ♡はっ♡はっ♡オーク様のおちんぽ♡っへえ♡♡
オーク様専用のちんぽハメるしか使い道のないだらしないエルフ穴にっ♡
オーク様のたくましいおちんぽ様ハメてくださあゝゝゝいっ♡♡♡」

「羞恥心ってものは無いのかよ、終わってんな(笑)
そんなにハメてほしいならハメてやるよ!感謝しろよ……!」



「んおっ！？はおおおおおおん♡ハメてもらって早漏マンゴイグツー！！
あ~~~~~！あ~~~~~♡久しぶりのおちんぽ様すっごいっぐうう♡♡
んっ♡……あひっ☆……はへえええ♡♡……んっ……あへおおおおおん♡」

「ごいつ……！勝ってにイクだけじゃなく嬉ションまでしやがった……！！
しばらく合わないうちに我慢のないオナホになりやがって！！
お仕置きだ！オラツ……！！」



「おっ♡おおう♡♡んっ♡ちよっとまっつ♡んおおおっ♡♡やっべこれっ♡
ひっぐううう♡♡まらイグっ☆おっほおおおお♡♡くおお♡ほっ♡ほっ♡ほっ♡」

「また勝手にイったらただじゃおかねーからな！オラッ！まんこ締めろ！」

「んんっ♡♡むりっ♡これダメダメだめえ♡♡まんこ締めてまらイグっ♡♡
早漏マンコイグっ☆イグののどまらないのおおおっほおおお♡♡
あゝゝゝっ♡♡イグッ♡おっほおおおお♡♡」



「締まるっ！こいつまたイキやがったな！？」
「おおっ出そうだ！オラツッ！排泄してやるから受精準備しろ！」

「ザーメンっ♡ちんぽミルクっ♡んおっ♡ほっ♡んほっ♡おっ♡ほおおおお♡♡♡
オナホエルフのザー処理専用オナホ袋準備完了♡♡♡
おっ♡またイグっ♡エルフオナホ早漏まんこ受精イキしますっ♡♡♡イグッ♡
おおっ♡イっぢやうううッ♡んっほおおおおお♡♡♡♡♡♡♡♡♡」



パンツッ♡
キツッ♡
パンツッ♡
キツッ♡

